

議長（竹島貴行君） 8番 前原英石君。

8番（前原英石君） おはようございます。

私は、この9月定例議会で通告をしております「健康な村日本一を目指す」構想について質問をいたします。

村長はことしの6月定例議会の冒頭のあいさつで、「安心して健康に暮らせるまちづくり」実現に向けた健康プロジェクト「健康な村日本一を目指す」構想について触れておられました。また、8月26日の全員協議会では、副村長も「職員採用の際には、採用された職員にこの構想を推進していくための職務をさせたい」と述べておられました。そして、今定例議会の提案理由説明の中ではこの構想にかける思いを述べておられ、これにかける村長、副村長、職員の強い思いを感じることができました。

現在、村では、村民の健康状態、生活習慣と地域環境の実態を把握し、現状の問題点を明確化するため、そのデータを収集することを目的にアンケート調査をしておられます。

そこで村長にお聞きします。

まず初めに、この村が目指す「健康な村日本一を目指す」構想とはどのようなものなのか。健康といっても、体の健康、心の健康など、ほかにもあるとは思いますが、村長が言われる「健康な村」とはどのような村を描いておられるのでしょうか。

構想実現のため、これから時間をかけ、役場と住民、そして議会が一体となって、この「健康」をキーワードとした構想を推進していかなければならないと考えますが、それを進めていくためには、村民にこの構想についてもっとわかりやすく具体的に伝えてもらえば住民の理解も得やすくなると思います。

また、9月20日までのアンケート調査を分析し、問題点が明確化した後、その計画をどのように次の段階へとステップアップさせて実施していこうと考えておられるのか。

次に、現在行われているアンケート調査についてお聞きします。

現在行われているアンケート調査は、村民2,000人以上を対象に行われていると聞いています。また、その調査の回収率は80%という非常に高い回収率を設定しておられ、これを見ても村長の村民に対する健康への思いがあらわれていると感じます。

先日、我が家にもアンケート調査「生活環境と暮らしの調査」が届きました。それを見たところ、直接健康には関係のないと考えられるような調査項目があったり、アンケ

ート自体が 8 ページとかなりボリュームもあり、記入時間も必要と思いました。

今回、あえてこのようなアンケート調査を実施されたことにはそれなりの理由や意図することがあり、多くの住民から調査回答を得ることにより、より詳細で明確な調査結果を求めることで、より深く村民の健康についての情報収集、また分析をして今後の構想に役立てていきたいと考えておられるのではないかと推察しますが、先ほど申し上げました 80% の回収率を上げるためには、もっとページ数が少なく、健康に関する項目に絞った内容にする必要があったのではないのでしょうか。

あえて高い回収率を設定し、その目標に向けて、村長を先頭とし職員一丸となって取り組まれる姿勢には感心させられますし、私たちもそれに対してこたえていかなければならないと思いますが、質問項目には、直接的には健康にあまり関係のないような「ご近所の人々との関係」「社会生活において感じること」「行政の施策について感じること」などの調査項目もありましたが、あえてそのような項目を加えられた意味についてもお聞きします。

次に、アンケート調査並びに富山大学の協力のもとにインタビュー調査も実施し、この調査結果の成果をもとに、「平成 24 年度では、住民・行政によるワーキンググループ、仮称『健康な村日本一構想対策協議会』を立ち上げ、富山大学の協力のもと、『健康な村日本一構想』を策定していきたい」と言っておられましたが、どのようなメンバーで対策協議会を立ち上げていこうと考えておられるのかお聞きします。

終わりになりますが、このアンケート調査「生活環境と暮らしの調査」を「健康な村日本一を目指す」構想のスタートとして、第 4 次舟橋村総合計画の基本目標 2、「安心して健康に暮らせるまちづくり」の 1、健康・医療の基本方針にもありますように、住民が生涯にわたり心身ともに健康で安心して暮らせるよう、健康診査の実施や健康指導などによる健康づくりを指導するとともに、関係機関と連携した地域医療体制の確立を図っていただきたいと思います。

これで質問を終わります。

議長（竹島貴行君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 8 番議員の前原議員にお答えいたします。

まず、「健康な村日本一を目指す」構想についてであります。

ご存じのとおり、健康とは、世界保健機関であります WHO で述べられておるわけですが、単に病気ではないとか、あるいはまたけがをしていなというだけでなく、

毎日生き生きと暮らせる、円満な家庭生活、社会生活が送れる、そういう状態が維持できることというふうに定義されております。

これまでの健康とは、私たち一人一人が適切な食事や睡眠、運動、飲酒量などについて気をつけていれば実現できるものと認識されてきたところでありますが、しかし、近年では、私たちを取り巻くご近所づき合いなど人とのつき合いや地域活動など、暮らしの環境を地域ぐるみで充実させることによって私たちの健康も増進するという研究結果が医学などの分野で報告されております。これをヒントにいたしまして、健康によい暮らしの環境を整備すれば、必ずや村民によい影響を及ぼすとともに、その実現の可能性が高まるというふうに考えておるところであります。

ここで、「健康な村日本一を目指す」構想とは、いわゆる村民一人一人自らが健康を実感できるよう、村内で豊かに暮らしやすい生活環境等を整えていくと。村が整えていくような取り組みをすることであるというふうに私は理解しているところであります。

そのために、住民の健康状態、あるいはまた生活習慣と地域環境の実態を把握することが大切であり必要となってくるわけであります。本年度はそのデータを収集するために、成人者全員を対象にいたしまして健康調査を実施しているところであります。村の特徴、よい暮らしや環境を調べまして、「健康面で日本一を目指す」構想の資料にしたいわけであります。

議員から、直接健康には関係がないということをお先ほど質問されたわけですが、これは8ページに及ぶということで、記入にも時間がかかるということ、あるいはまた簡素なものにしたほうがよかったのではというご意見もございましたけれども、この調査項目に当たりましては、富山大学あるいは関係の皆さんの力を得まして検討してまいったわけありますので、そういったことがぜひとも必要であるという認識のもとに調査事項を決めたわけありますので、そういったこともこの場で私は申し上げ、皆さん方にご理解をいただきたいわけあります。

また、目標回収率も80%という大変高い数値を設定しているわけありますが、回収したものの内容をできるだけ詳細に調査分析いたしまして、そしてよきデータになるよう努力してまいりたいと考えておりますので、どうかそのことをご理解とご協力をいただきたいと、こういうふうに思っております。

次に、来年度予定しております構想策定のためのワーキンググループについてであります、これはいろんなことで協力関係にあります富山大学はもちろんのこと、役場の

総務課あるいはまた生活環境課の職員をはじめ、住民の代表の方々に構成してまいりたいと考えております。

これは、目下実施しておりますアンケート分析をもとに、どのような取り組みを行えば健康度が向上するかを検討してまいるグループであります。そういうこともありまして、ワーキンググループには住民代表の委員も入れることが私はふさわしいと思っております。あるいはまた、地域活動をやっておいでになるリーダーの方も含めるということで、こういったことを含めまして、自治会関係者あるいはまた各種団体の代表の方を中心に構成を考えてまいりたいと、こういうふうを検討しているところであります。

いずれにいたしましても、この構想が多くの村民の皆さんの健康増進につながるよう努めなくてはならないという認識でありますので、今後とも、こういったことで関係の皆さんを含めて十分協議をしながら、そしてまたご協力いただきながら、成果の上がる報告あるいはまた構想づくりに努めたいと思っておりますので、どうか議員各位の皆さん方にもご理解とご協力をお願い申し上げます。私の答弁とさせていただきます。

よろしくお願い申し上げます。